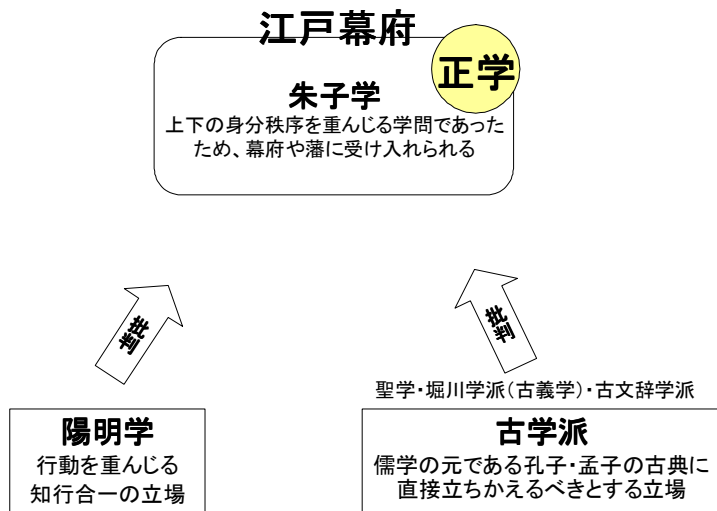


# センター17 近世の文化① 儒学・国学・洋学

## 儒学



【2010-本】

西洋の情報の摂取に関して述べた次の文について、古い順に並べよ。

- I 新井白石が、イタリア人宣教師シドッチを尋問した。
- II 幕府の天文方に、翻訳のための蛮書和解御用がおかれた。
- III 漢訳洋書のうち、キリスト教にかかわらないものの輸入が認められた。

答 → I、III、II 新井白石の正徳の治後に行われた徳川吉宗の享保の改革で、漢訳洋書の輸入制限が緩和されたことにより洋学が発展し、化政期に蛮書和解御用が設置されたという、洋学の大きな流れをつかんでいけば正解できる。

【2009-本】

北越雪譜の著者鈴木牧之は、1770年に生まれ、1842年に没した。次の文a~dについて、この人物の生存中に起きた出来事として正しいものの組合せを、下の1~4のうちから一つ選べ。

- a 幕府は、風俗の乱れを取り締まるために、遊里を描いた洒落本作者の山東京伝を処罰した。
- b 幕府は、天皇が幕府の許可を得ずに与えた紫衣を無効とし、これに抗議した僧を処罰した。
- c 幕府は、湯島聖堂の学問所において、朱子学以外の学問を教えることを禁止した。
- d 幕府は、歌舞伎が民衆に人気を博すにつれて、女性が演じることを禁止した。

1. a・c 2. a・d 3. b・c 4. b・d

Pain is inevitable Suffering is optional

解答 → 鈴木牧之が生きた時代は田沼時代、寛政の改革、文化・文政時代の頃。選択肢のうち、aとcは寛政の改革での出来事、bとdは江戸時代初期の出来事。aは1790年、bは紫衣事件で1627~29年、僧は沢庵。cは寛政異学の禁で1790年。dは1629年。

学派		特徴	学者と業績
儒学	朱子学	京学 朱熹が大成。 【大義名分論】と【身分秩序】を重視し、幕府に採用される。京学は京都から、南学は土佐からおこる。 【昌平坂学問所】を幕府直轄の学問所とする	寛【藤原惺窩】朱子学の祖 寛【林羅山】家康、秀忠、家光、家綱に仕える。身分制度を絶対視。 元林鷲峰 → 林羅山と「本朝通鑑」編纂 元【林信篤】 → 綱吉に仕え、大学頭に任命される 元【木下順庵】 → 加賀藩主【前田綱紀】に招かれのち綱吉の侍講 元【新井白石】 → 正徳の治、「 <u>読史世論</u> 」「古史通」 元室鳩巢 → 吉宗に仕える 南村梅軒 → 南学の祖とされる 元【山崎闇斎】 → 保科正之に招かれる、垂加神道
	陽明学	王陽明が創始 朱子学の形式主義を批判 孔子・孟子の古典を重視	寛【中江藤樹】 → 日本陽明学の祖、近江聖人 元【熊沢蕃山】 → 藤樹の門弟、池田光政(岡山藩)に仕える。「 <u>大学或問</u> 」を著して幕政を批判し、配流。私塾の <u>花鳥教場</u> を設立
	古学派	朱子学・陽明学を批判、孔子・孟子の古典を重視	元【山鹿素行】 → 「 <u>聖教要録</u> 」で朱子学批判、流罪 元【伊藤仁斎】 → 私塾の【古義堂】を京都に開く 元【荻生徂徠】 → 私塾の【養園塾】を江戸に開く。『 <u>政談</u> 』を著し、吉宗の相談役になる 元【太宰春台】 → 徂徠の弟子【 <u>経済録</u> 】

●国学と洋学の発展

		国学	洋学
元禄	はじまり	契沖や北村季吟が研究	新井白石が研究
	きっかけ	荷田春満が国学の学校設立を吉宗に建議	吉宗より漢訳洋書輸入制限の緩和がなされる
化政	発展	本居宣長によって大成	洋書が大量に輸入され洋学が発展
	転換	平田篤胤が復古神道を唱える	シーボルト事件、蛮社の獄などの弾圧を受ける
	影響	尊王攘夷運動に影響を与える	思想面がなくなり、実学としての性格を強める

学問	特徴
<b>国学</b> 古学の影響を受ける。外来の思想(仏教・儒教)などを排除し、それらが日本に伝わる前にあった日本の古典を研究することを主張	元【北村季吟】⇒俳諧・和歌を学び、幕府の歌学方となる 元【契沖】⇒『万葉集』を研究し『万葉代匠記』を著す 元【荷田春満】…国学の学校建設を吉宗に建議 元化【賀茂真淵】⇒『万葉集』『古事記』を研究し、『万葉考』を著す 化【本居宣長】⇒国学を大成、『古事記伝』を著す 化【塙保己一】⇒和学講談所を設立、『群書類従』を著す 化【平田篤胤】…復古神道を唱える。国粹主義の立場を強め、尊王攘夷運動に影響を与える
洋学	元【新井白石】⇒シドッチを尋問し、海外事情などを『西洋紀聞』などにまとめる 元化【青木昆陽】・野呂元丈…吉宗の命によりオランダ語を学ぶ
	化【杉田玄白】⇒『解体新書』『蘭学事始』 化【前野良沢】⇒『解体新書』 化【大槻玄沢】 ⇒『蘭学階梯』(蘭学の入門書)、江戸の私塾の【私蘭堂】を開く 化【緒方洪庵】 ⇒【適塾】を大坂に開く。福沢諭吉、大村益次郎らが学ぶ
	化【稲村三伯】⇒『ハルマ和解』(オランダ語の辞書) 化【高橋景保】⇒幕府に翻訳所の蛮書和解御用の設立を建議。シーボルト事件で投獄されて獄死。
	化【平賀源内】⇒エレキテル製作
	化【志筑忠雄】⇒『曆象新書』(天文・物理学者) 化【高橋至時】⇒天文方、寛政暦作成 化【伊能忠敬】⇒『大日本沿海輿地全図』作成

●政策論と弾圧

幕藩体制の行き詰まりと社会の変化は、思想面にも大きな影響を与えました。18世紀半ば以降には幕藩体制を批判する思想、あるいは改良を説く経世論、対外危機への対応を論じるものなどがま

す。ここでは、人名・著作名と思想の特色をセットで覚えましょう。

経世論	元禄期 統治の 具体策を説く	【熊沢蕃山】	参勤交代の緩和と武士の帰農が諸藩の財政窮乏の打開策であると書いた。『大学或問』により社会を批判し、下総古河に幽閉。
		【荻生徂徠】	8代将軍吉宗に提出した『政談』で武士土着論や、奢侈の抑制による幕府政治の立て直しを説いた。
		【太宰春台】	諸藩の財政窮乏の打開策として、商業活動や藩専売制実施を説いた。
	化政期 封建制維持、 改良を説く	【海保青陵】	『稽古談』を著し、藩営専売による財政再建論を展開する。
		【本多利明】	外国との貿易振興を図り、金・銀・銅をとりこむことを主張『経世秘策』
		【佐藤信淵】	国家専売制や貿易振興を唱え、『経済要録』を著す。
尊王論	化【竹内式部】	1758(宝暦8)年に京都で尊王論を説いた。このため翌年、幕府により追放(宝暦事件)。	
	化【山県大弼】	1767(明和4)年、江戸で兵学を講じ幕政を批判。死罪(明和事件)	
	水戸学の尊王論	前期 2代藩主光圀の時代。尊王斥覇の考えが主流 後期 9代斉昭の時代。藤田幽谷・東湖父子、会沢安ら尊皇攘夷論を説く。幕末の尊皇攘夷論の理論的根拠を形成。	
義理主	化【富永仲基】	懐徳堂出身。『出定後語』で歴史的立場から儒教や仏教を否定し、人の当たり前を基本とする「誠の道」を提唱。	
	化【山片蟠桃】	懐徳堂出身。『夢の代』で合理的な立場から地動説や無神論、自由経済政策を説く。	
その他	寛【宮崎安貞】	『農業全書』で農業技術などを紹介する。	
	化【大蔵永常】	『広益国産考』を著し、商品作物の栽培を奨励。	
	寛【安藤昌益】	江戸の医者。万人が直耕する(万人が農業に従事する)平等な社会を「自然世」とよび、身分社会を否定し、封建制度を批判。主著『自然真営道』	
	化【林子平】	『海国兵談』でロシアの南下を警告し、海防論を説いて寛政の改革で処罰される。	
	化【工藤平助】	仙台藩医。『赤蝦夷風説考』を老中田沼意次に献じ、蝦夷地開発と対ロシア貿易を説く。	
	化【渡辺崋山】	幕府の対外政策を批判し『慎機論』を著すが、幕府に弾圧される。蛮社の獄。	
化【高野長英】	幕府の対外政策を批判し、『戊戌夢物語』を著すが、幕府に弾圧される。蛮社の獄。		

センター18 **近世の文化②小説・芸能・美術・建築**

分野	種類	作者	代表作	その他
小説	洒落本	化【 <b>山東京伝</b> 】	【 <b>仕懸文庫</b> 】	
		化【 <b>恋川春町</b> 】	【 <b>金々先生栄花夢</b> 】	
	人情本	化【 <b>為永春水</b> 】	【 <b>春色梅児誉美</b> 】	
	合巻	化【 <b>柳亭種彦</b> 】	【 <b>修紫田舎源氏</b> 】	
芸能	歌舞伎	元【 <b>市川團十郎</b> 】(荒事)、元【 <b>坂田藤十郎</b> 】(和事)が人気を博す		
	人形浄瑠璃	元【 <b>近松門左衛門</b> 】(脚本)、元【 <b>竹本義太夫</b> 】(語り手)が担い手となる		
美術	障壁画	桃【 <b>狩野永徳</b> 】	【 <b>洛中洛外図屏風</b> 】	
		寛【 <b>俵屋宗達</b> 】	【 <b>風神雷神図屏風</b> 】	大和絵の手法用いる
		元【 <b>土佐光起</b> 】		土佐派が <b>朝廷絵師</b> となる
		元【 <b>尾形光琳</b> 】	【 <b>紅白梅図屏風</b> 】	【 】の画風を取り入れ、琳派と称される
	浮世絵	元【 <b>菱川師宣</b> 】	【 <b>見返り美人図</b> 】	肉筆画(画家自身が筆で描いた絵画)
		化【 <b>鈴木春信</b> 】	【 <b>弾琴美人</b> 】	【 <b>錦絵</b> 】(多色刷りの浮世絵版画)を創始する
		化【 <b>東洲斎写楽</b> 】	【 <b>市川鯉藏</b> 】	大首絵の手法を用いる
	写生画	化【 <b>円山応挙</b> 】	【 <b>雪松図屏風</b> 】	
	文人画	化【 <b>池大雅</b> 】	【 <b>十便十宜図</b> 】	十便図
		化【 <b>与謝蕪村</b> 】	【 <b>十便十宜図</b> 】	十宜図
西洋画	化【 <b>司馬江漢</b> 】	【 <b>不忍池図</b> 】	銅版画を創始した	
建築	【 <b>権現</b> 】造	寛【 <b>日光東照宮</b> 】	徳川家康を祀っている派手で豪華	
	【 <b>数寄屋</b> 】造	寛【 <b>桂離宮</b> 】	書院造に草庵風茶室をとり入れた建築	

【2006-本】

江戸時代の文化・思想について述べた文として誤っているものを、次から一つ選べ。

- (1)『広益国産考』などの農書によって、新しい農業技術が広まった。
- (2)『日本永代蔵』などの浮世草子には、現世を生き抜く町人の姿が描かれた。
- (3)『経済録』を著した太宰春台は、藩による商業活動の重要性を説いた。
- (4)『聖教要録』を著した山鹿素行は、積極的な貿易拡大を説いた。

答→『聖教要録』は武士日用の道徳を主張したもの。

【2005-追】

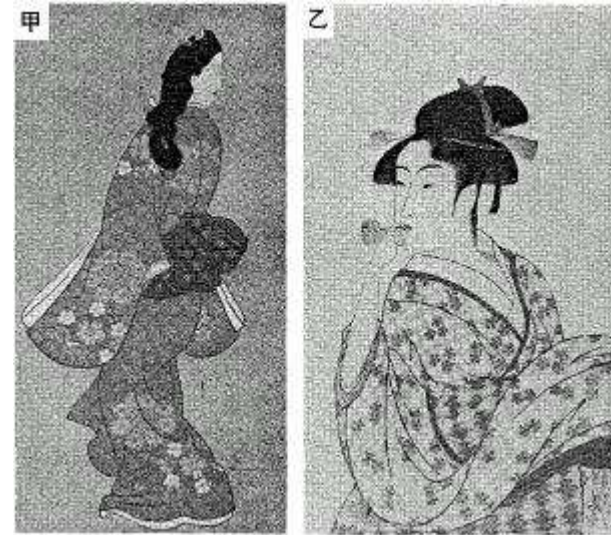
江戸時代の学問について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ①吉田光由が『塵劫記』を著し、和算の普及に寄与した。
- ②中国の暦を訂正した貞享暦が作成された。
- ③北村季吟は、日本の古典を収集して、『群書類従』を編纂した。
- ④動物や薬草などの研究を行う本草学が発達した。

答→北村季吟→塙保己一。北村季吟は古典注釈を行なう。

【2005-追】

次の甲・乙に関して述べた文a～dについて、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。



- a 甲の作者は、錦絵をはじめたといわれる。
- b 甲の作者は、浮世絵版画をはじめたといわれる。
- c 乙は東洲斎写楽の作品である。
- d 乙は喜多川歌麿の作品である。

- ①-a・c    ②-a・d    ③-b・c    ④-b・d